

海外視察訪問

文責 伊藤・三田

渡航期間

2018年9月7日～9月17日

渡航目的

妊娠・出産の高年齢化に伴い、不妊治療受診者の増加、産後の子育てをしんどく感じる人や深刻な産後うつの問題などが起こっている。そこで、不妊治療者向けの支援制度、妊娠・出産の遅らせを選ばなくてもよくなるような家族形成の支援などの方策のヒントとなる制度を学ぶため、妊娠から出産、子どもが生まれた後も基本的には6歳まで切れ目なくサポートを提供する総合的な支援サービスで有名なフィンランド、男女共同参画が進んでおり、先進的な取組で有名なスウェーデンの2か国の不妊、妊娠、子育ての施策や状況について研究者を中心にヒアリングを行った。

渡航先

フィンランド (9/10-11)、スウェーデン (9/12-15)

※許可なく転用することを禁じます。

フィンランド (2018年9月10日～11日)

訪問1

○面談者

Dr. M. M., Dr. H. R.

○場所

Moomin cafe at the city centre campus (Liisankatu 21, 00170 Helsinki)

○面談概要

フィンランドの不妊治療の状況について聞いた。フィンランドでは、公的な医療機関での治療のIVF(体外受精)3回分について申請をすれば助成金が支給される。同性婚のカップルにお金は支給されない。しかし、シングルの女性が妊娠した場合はお金が支給される。養子縁組の夫婦の場合はお金が支給されない。最初から公的外の医療機関に行く場合は、公的な場合よりも少なめの金額が支給される。

IVFにかかる費用は1サイクルで2036EURO(大体27万円程度)。不妊治療を受けるカップルはいつ治療をやめる決断をするのが難しい。一方で、独身者が若い段階で卵子凍結保存をしてからキャリアを積んだ後に保存していた卵子を使うという選択をする人も出てきている。フィンランドのカップルにとっては周りから不妊治療を受けることへのネガティブな受け止められ方、“Stigmatize(烙印をうける)”と受けとめられるため、議論にはするけれども受け止められ方はまだSensitiveな話題であると受け止めている。しかしながら、これらの不妊治療における内容は、Political Issueであると、研究者自身は捉えていて、Future of fertilityをテーマに研究助成を獲得するために動いていると話していた。

○参考資料

“What you need to know about egg-freezing, the hot new perk at Google, Apple, and

Facebook”

Business Insider (Sep. 17, 2017, 10:30 AM)

<https://www.businessinsider.com/egg-freezing-at-facebook-apple-google-hot-new-perk-2017-9>

「医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する見解」
公益社団法人 日本産科婦人科学会

http://www.jsog.or.jp/modules/statement/index.php?content_id=23

訪問 2

○面談者

Dr. H.T.

TERVEYDEN JA HYVINVOINNIN LAITOS (THL) 英語名 : National Institute for Health and Welfare

○場所

THL (Mannerheimintie 166, Helsinki PL30, 00271 Helsinki)

○面談概要

フィンランドの妊婦から子どものケアについて総合的な紹介をしてもらった。フィンランドで最初の妊婦と子どもの医療機関が設立されたのは1920年であった。フィンランドの子どものケアに関する法律は1944年に作られ、各自治体では母子に対する医療サービスを提供する法律的な義務が生じた。このサービスにより、フィンランドは世界的にも低い乳児死亡率を記録しているとの説明であった。フィンランドの家族政策では、子どもが安全な環境で育つことができるように金銭的な援助、育休制度、医療、社会保障、教育などの公的なサービスの提供を行っている。このKELAのギフトで有名なものは、出産祝いギフトセット (Maternity package) である。KELA(フィンランドの社会保険システム)の保障では、5か月以上続く妊娠状態であるとマタニティクリニック、医師、私設医療機関によって妊娠の診断書によって確認されると、Maternity grant という形で、170ユーロか、マタニティパッケージのいずれかを選択して受け取ることができる。(お金か出産祝いギフトセットのどちらかを選択できるが、大抵のカップルはギフトセットを選択しているのが実情のようである。)

いくつかの家族政策の法律策定を経て現在のフィンランドの母子保健サービスが行われている。その中でも国の機関であるTHLは、各自治体で行われている保健政策の指導と監督を行っている。プライマリーヘルスケアは自治体のHealth Centre (保健センター)で行われている。家族計画、母子保健クリニック、学校や学生の医療ケア、歯科、外来医療ケア、在宅看護サービスなどがある。これらのHealth Centreで行われるデイケア、子どもの保護、家族へのカウンセリング、専門的なケアなどのサービスは複数の多様な専門家によってチームで行われている。保健師、内科医、ソーシャルワーカー、心理療法士、理学療法士、

言語療法士、栄養士、歯科医などが所属している。プライマリーヘルスケアについては、住民が所属する自治体であれば無料で提供を受けられる。どのような社会的な集団に所属していることも問われない。

Maternity clinic は 55,000 件数の出産を受け持ち、99.3%の家族がサービスを利用している。Child health clinic は 420,000 の就学前の子ども（0-6）を受け持っており、99.5%の家族がサービスを利用している。Maternity clinic と Child health clinic のサービスは、妊婦の健康とその家族の病気の予防、健康の不平等を減らすことを目標としている。ここで特徴的なのが、通常の妊婦健診は基本的に医師ではなく保健師か助産師が行っており、8-9 回 Clinic へ夫婦で訪れ、産後は 2 回訪れることになっている。医師による検診は、13-18 週に 1 回、35-36 週に 1 回、産後の 5-12 週に 1 回となっている。子どもが 1 才を迎えるまでに 9 回、1-6 歳の間には 6 回 Clinic へ訪れることになっている。これらの定期的なカウンセリングサービスにより、家族支援のネットワークを築くことができおり、子どもだけではなく両親の健康な状態を支援することができる。

さらに Extensive Health examination を家族に対して実施している。子どもを持ちたいと考えている家族には少なくとも 1 回、子どもがいる家族は子どもが 4 か月、1 歳半、4 歳の時に受ける。両親ともに参加することとなっている。保健師、助産師か医師と協力して実施されている。両親の健康と Wellbeing をみている。家族の交流、生活の状況や社会的サポートの必要性、子どもや子どもの兄弟の健康状況などを評価している。早期の段階で、家族の支援のニーズを識別することを目的としている。EPDS を用いた産後うつ検査、アルコール症スクリーニングテスト (AUDIT)、パートナーからの虐待などを質問紙で評価している。

クリニックでは家族に対する在宅訪問や両親のグループや家族をトレーニングするグループへのサポートの実施、ハイリスク妊娠や出産は大学や中央病院で医療ケアを受けることになっている。より専門的な子どもの養育や家族のカウンセリングが必要な場合は病院で受けることになっている。特別な訪問や支援が必要とされるのは、お母さんが慢性疾患を持っている場合、妊娠中毒症を持っている場合、子どもに心身の障害が見られる場合、家族に問題が起こっている場合 (DV、中毒症、精神疾患など) が挙げられる。2004-2016 年のフォローアップ調査で、Extensive Health examination がサービス提供者とクライアントである家族にとっても肯定的に受け止められていることが確認された。分けて提供されるよりも、包括的に Maternity Clinic と Child health clinic のサービスが包括的に行われた方が両親の満足度が高まることが分っている。Maternity Clinic では保健師か助産師 1 人あたり最大 76 人の妊婦を受け持つ。医師 1 人あたり最大で 600 人の妊婦を受け持つ。Child Health clinic は保健師一人あたり最大 340-400 名を受け持つ。医師は一人あたり 2400-

2800 名受け持つ。これらの社会福祉や医療システムは現在
国で改革が進められており、現在 300 の自治体で持っている
のを 18 の州で受け持つように変革することが進められてい
るが、この改革は 10 年以上かかっている状況である。専門
的な支援が一か所で受けられるファミリーセンターのモデ
ルを基にしたセンターの設立が進んできている。

○参考資料

THL (TERVEYDEN JA HYVINVOINNIN LAITOS)

<https://thl.fi/fi/web/thlfi-en>

KELA (Social Insurance Institution)

<https://www.kela.fi/web/en>



写真1 バスの中のベビーカー用
ボタン（フィンランド市内）

訪問 3

○面談者

Dr. R. A., Mr. M. M., Ms. H. T.

○場所

Väestöliitto (Kalevankatu 16 Mailing address: P.O.Box 849, FI 00101 Helsinki,
FINLAND)

The population Research Institute

○面談概要

Väestöliitto は人口問題を扱う NGO の研究機関。スウェーデンの政策を手本にフィンランドの男女共同参画の政策の推進が行われてきた。男性の育児休業、育児中の雇用条件の確保、性教育、家族の健康状態の定期的なチェック（前の TFL でも話題に挙がっていた。）なども進められてきている。

性教育が始まったのは 1970 年から。若者世代には避妊具は無料で配られている。医師に社会的な理由が認められれば墮胎も可能である。

ここ近年（2010 年代）は合計特殊出生率（Total Fertility Rate）は下がってきている状況である（2017 年では 1.49）。フィンランドでは、結婚に至るまでに同棲があり、子どもができてから結婚へと進む経路を家族はたどっている。フィンランドでは独身女性が精子の寄付による妊娠が認められている（スウェーデンでは禁止とされている。）このように多様な家族形成が認められている一方で、離婚率が上がっていて、全家族における 21%を占めている。離婚後も家族間での訪問が認められている。（この辺りは EU の規約に基づいて制度設計が行われている。）

フィンランドの女性の子どもの持つ時期が遅れてきているが、2-3 人の子どもを産んでいる。（台湾 30 歳、フィンランド 29 歳、アメリカ 27 歳）1970 年までのコーホートでは

3人以上の子どもを持つ家族が増えている。金銭的な家族支援も OECD 諸国の中でも高い方である（フィンランド 3.3%、OECD 諸国 2.55%）。

産休、育児休業制度（両親、父親「Daddy-quota」）がある。子どもが1才になる前に終わる。育休中は給与の70%のお金が保障されている。無業状態の場合は最低限月額600ユーロが保障されている。子どもが3歳になるまでに、月額340ユーロが保障されている。

一方で、フィンランドでは性教育を進める事で、フィンランドにおいても不妊はセンシティブな話題と捉えられている。

○参考資料

Väestöliitto

http://www.vaestoliitto.fi/in_english/

訪問4

○場所

Itäkatu Family Centre (Itäkatu 11, 00930 Helsinki)

Family Center を事前に調べていたため、アPOINTは取っていなかったが、現地に直接訪問することにした。

○面談概要

ファミリーセンターはヘルシンキ中央駅より電車で20分のItakatsu駅に併設されたビル内にあり、ベビーカーでのアクセスが非常によい印象であった。ファミリーセンターは、保健師、内科医、ソーシャルワーカー、心理療法士、理学療法士、言語療法士、栄養士、歯科医などが所属しているようで、個室ごとに専門家がいたりとなっていた。施設の作り方もフラットな関係性がうかがえる作りとなっていた。一か所に専門家が集まっているため、相談内容によっては横の連携関係が取りやすいシステムとなっていた。相談利用者は事前に予約を取って、その時間に相談にのってもらおうという形となっていた。

室内は、日本では子育て＝母親と子どもを前面に出した内装やイラストが用いられるが、お父さんが子育てに関わっていたり、養子縁組でできた家族やヒジャブを付けたキャラクターの絵などが描かれていたりと多様な家族を受け入れる寛容的な姿勢を室内から感じ取れた。また、15—20言語のセンターの施設案内のパンフレットを常備していたのには、非常に驚いた。ベビーカーに子供を連れたお母さんを3組ぐらい見かけたが、事前予約をしているようで、入り口近くの予約カウンターの所で受け付けをした後はすぐに目的地に向かっている様子であった。

○参考資料

Itäkatu Family Centre

<https://www.hel.fi/sote/en/presentation/social+and+health+care+services+to+be+reformed/itakatu-familycentre>



写真2 イタークファミリーセンター



写真3 イタークファミリーセンター内の多言語資料

スウェーデン（2018年9月12日～14日）

訪問5

○面談者

Dr. A. E., Ms. S. S.

Department of Women's and Children's Health (KBH), K6

○場所

Karolinska Institutet

Tomtebodavägen 18A, Widerströmska huset, Dept of women's and children's health,
Division of reproductive health

○面談概要

面談相手の Dr. A. E. は家族グループに対する指導を何年も行ってきており、その経験の中で Father Group に対する産前教育を強化することで、家庭内暴力の抑止、アルコール中毒などの問題が起こりにくくなる効果を確認している。労働者階級に対しても実践しており、効果が得られたと考えている。

スウェーデンでは、フィンランドよりも移民の流入数が多いため、移民受け入れ問題が政治的な焦点となっていた。レイシズムや移民の人々を分離することなどを主張する人が出てきているとのことであった。もともとスウェーデンは民族的には単一民族であったこともあり、移民受け入れに対しては寛容であったが、社会で受け止められる以上の移民数が押し寄せたこともあり、移民問題はスウェーデン国民の懸念事項となっている。

スウェーデンが現在のような男女平等政策が進んだ状況になったのは、2世代前の世代からスタートしており、Dr. A. E. のお父さんの時は育休制度や子育てに父親が積極的に関わることはない状況であったと言っていた。

産後うつの結果、出産後1年以内に自殺をしてしまう人の中には、高年齢出産の人が多くことが話題になった。Dr. A. E. の見解によれば、特に高年齢出産の女性にとっては、キャリアの断絶が起こることによりアイデンティティを見失うことに繋がることを指摘していた。高年齢出産は母子ともに身体的なリスクが高いだけではなく、人生で色々な事を経験しているがゆえに悩みが深くなるのではと話していた。

Ms. S. S. は心理学者で中国の産後うつを研究している。日本やアジア圏の女性の生きづらさは、雇用制度が硬直的なことに由来しており、彼女の母国も同じく雇用制度が硬直的な所が日本と非常に良く似ていて、スイスも同じく合計特殊出生率が低い状況であると指摘をしていた。



写真4 カロリンスカ研究所

訪問6

○面談者

Dr. W. H., Ms. H. M., Dr. P. Å., Dr. E. H.

○場所

University of Gothenburg Institute of Health and Care Sciences(Arvid Wallgrens backe hus 102, 405 30 Göteborg)

○面談概要

Ms. H. M. より、助産ケアモデルである、Women-centred(女性患者中心のケア) のMiMoについて説明があった。1. A Birthing Atmosphere、2. Reciprocal Relationship、3. Grounded Knowledge の3つから構成されている。この女性患者中心のケアを行うことで、助産師の QOL が向上することが研究結果から明らかになったと説明があった。もう一つはMiMo の説明の中で、助産師個人の特有の助産ケア活動の考え方や動き方が、他の専門職から理解されていないこともあり、他の専門職と協働で患者ケアを行うことへの妨げになっており、そのことがMiMo の効果的な運営においても影響しているとの報告もあった。

Dr. E. H. より、3つかの研究プロジェクトについて説明をしてくれた。その中の一つ、Pregnancy as a political process では、政治学の研究者と保健学の研究者が共同研究を行い、妊娠によって政治行動がどのように変わるのかについてパネルデータを取って研究を行っている。妊娠することによって、自治体の保健や公共サービスを使う機会が増えることにより、社会への関心が深まるなどの行動変化が見られるため、その変化を保健学と政治学の面から捉えようとしている。

参考資料

MiMo - a study of a midwifery-model of woman-centred care during childbirth

<https://caresci.gu.se/english/research/research-groups-/childbirth/research-projects/mimo>



写真5 ヨーテボリ大学構内